



豊かな実りを願って...

## 熱帯雨林保全プロジェクト

**私たちは南太平洋諸国  
パプアニューギニア、  
ソロモン諸島の貴重な熱帯雨林を  
保全するために  
定地での有機農業普及への  
支援を続けています。**



パプアニューギニアやソロモン諸島では、焼畑農業に代表される移動耕作が広く展開されており、出生率の高止まりと死亡率の低下による人口の急増や食生活の変化に伴い、食糧生産のため開墾地面積が増加し、森林にとって大きな負担となっています。

また、この人口圧は雇用問題も深刻化させ、農村部から都市部への人口の流れが治安の悪化を招いており、農村部での取組みはとても重要です。

そこで私たちは、農村部で森林保全、食糧生産そして雇用確保が実現できる定地での循環型有機農業の普及に向けて支援を始めています。



パプアニューギニアの焼畑



バブアニューギニア クランブ村の精米小屋(左、02年度寄贈)とぼかし小屋(右、03年度寄贈)

## バブアニューギニアでの活動

バブアニューギニアは、オーストラリアの北東、赤道より少し南に位置する熱帯の国です。人口の86%が農村人口で、農業による農村開発は国の課題にもなっており、定地での稲作の普及が諸問題の解決の一助になることが期待されています。



精米機に興味を示す  
パルマルマルの子どもたち(03年度寄贈)

私たちは、稲作普及の障害となっている精米施設不足を解消するために、プロジェクトの第1ステップとして精米機や精米小屋設置を支援してきました。これまでの4つのコミュニティーに加え、今年はパルマルマル村へ同様の支援を実施し、既に精米機が設置済みの2つの村(クランブ村、ウボル村)へは循環型有機農業の実現に向けた次のステップとして、有機肥料を作るための製造小屋の建設を支援しました。

## プロジェクトでの苦労と喜び

現地からの報告では、建設や設置にあたって定期貨物船がないことで資機材の搬送に時間が掛かるなど問題もあったようです。一方でプロジェクトパートナーである(財)オイスカの方々を中心に現地の子どもたちからお年寄まで総出で建設にあたり、完成させたという良いニュースもあり、この村全体が一丸で努力、取組んだことは今後大きな成果に結びつくと思います。また、クランブ村やウボル村ではすでに森林の伐採による食糧生産は行われておらず、定地での耕作は現地に根付きつつあります。

私たちは、今後もオイスカエコテックセンターでの農業研修の充実をはじめ村々へ一連の支援を継続、強化していきたいと思っています。



精米される前の米



精米された米



パーマカルチャーセンターで作業する現地の人々

## ソロモン諸島での活動

ソロモン諸島は、パプアニューギニアの東隣に位置し、肥沃な土壌、豊富な雨量に恵まれた農業国です。

私たちのプロジェクトは、マライタ州フィユ村というごく平均的な村に循環型有機農業のモデルビレッジを作り上げ、その施設での農業研修によって人材を育成することやその土地に合った循環型農業の確立と普及を目指しています。

## 今年の活動と今後

2003年度は、プロジェクトパートナーのNPO法人APSDをメインに、モデルビレッジ実現の中心となるパーマカルチャーセンター施設が一部完成しました。

それらは養豚施設、有機物肥料製造小屋（ボカシ小屋）、炭焼き小屋などです。焼畑農業から定地型有機農業に移行するに伴い、土壌への必要最低限の養分補給が重要であり、豚の糞尿などから堆肥を作るのです。村の方々からは有機肥料を施した方が作物の生育が旺盛で、味も良いというような反応もあり、循環の流れが進みつつあります。

今後も引き続きこのセンターの施設を充実させていくほか、フィユ村から周辺の村に波及していくように人材の育成への支援に力を入れていきます。



開墾を進めている



パーマカルチャーセンター開所式の模様



開所式に参加した理事長(写真右)